

令和3年度学校教育教員養成課程

(学校推薦型選抜Ⅱ型)

小学校教育専修家庭科教育コース

中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

表 紙

[解答上の注意]

1. 試験開始後、表紙1枚、問題用紙1枚、解答用紙1枚、下書き用紙1枚があるか、確認しなさい。
もし、欠落のある場合には挙手して、そのむねを申し出なさい。
2. 解答用紙の受験番号欄に、受験番号を忘れずに記入しなさい。
3. 解答は、それぞれの設問ごとに指定された解答用紙に、指定された文字数で、横書きで記入しなさい。句読点も1字に数えます。
4. 解答用紙の太線  部分には、何も記入しないようにしなさい。
5. 試験終了後、解答用紙を回収します。(全1枚)
表紙を含め、問題用紙、下書き用紙は各自持ち帰りなさい。(全3枚)

令和3年度学校教育教員養成課程

(学校推薦型選抜Ⅱ型)

小学校教育専修家庭科教育コース 中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

問題用紙 全1枚

問題 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

人は生物です。生物は気候風土の中で育まれます。地球上には、緯度経度の差で無数の気候風土があり、そこにはそれぞれに特有の生き物が生息しています。仕事というものも、生物と同じであると思います。気候風土が異なる地域では、異なる生物が生まれ、異なる地域では異なる仕事が必要とされるのではないのでしょうか。もちろん異なる地域にも、似た生物がいるように、似た仕事も存在しますが、気候風土や歴史、文化が違えば、まったく同じではなくなるはずです。日本の「着物」は、ヨーロッパの衣服とは異なる発達をしてきました。見てわかるように、着物はほぼ形態が決まっていますが、欧州の衣服はそうではなく、多様な形態をしていてそこに大きな意味もあります。着物は形態が同じぶん素材が注目され、布の独自性がその着物の特殊性を作り出しています。つまり、日本の衣服とは、布づくりが中心なのです。いかに布を作るかが重要となり、そのため、繊維や糸の縲り、染め織り刺繍などが駆使されてきました。そして、一反の反物のどこをどのパーツに使うかだいたい決まっています。柄もそれをふまえて染められています。しかしヨーロッパの衣服は、カットワークとかカット&ソーというように、身体に合わせて布をカットして、接ぎあわせて形づくられてゆきます。布がもつ力も重要ですが、それ以上に、カットの仕方、縫製の仕方、芯地やいせ込みなどの立体的な加工の手法が重要です。言い方を変えれば、日本の衣服は身体を衣服に合わせて、ヨーロッパの衣服は身体に衣服を合わせて作ったと言っているのかもしれない。日本には昔から「染織家」という仕事がありますが、「衣服家」という仕事は近年になってからできたものだと思います。ヨーロッパでは昔から、布を作るテキスタイルデザイナーと形を考えるデザイナーがいました。現在の日本のファッション産業は、このヨーロッパと同じような分業で成り立っています。しかし、海外とは異なる日本の衣服が生まれるためには、日本の気候風土や、日本人が培ってきた制作の方法を基本に持つ衣服領域を構成してゆかねばならないと感じます。そこで、海外の衣服制作とは異なる「布を形作る」という、布や繊維から衣服へ造形してゆくというあり方が、ひとつの可能性になってくるのだと考えています。私の衣服造形も、この日本の衣服の延長線上に描いて行きたいと思っています。

(出典：眞田岳彦『考える衣服 Conceptual Clothing』株式会社スタイルノート、2009年による。原文は縦書き。表記を一部変更した。)

- 問1. 日本の衣服とヨーロッパの衣服の違いについて、筆者の考えを200字以内でまとめなさい。
- 問2. 着物という日本の伝統文化を継承していくために、どのような工夫が考えられるか、具体例を挙げてあなたの考えを400字以内で記述しなさい。